

SCOPE



Coverphoto・Essay / Ikuo Nakamura

紅海のキンギョハナダイ



©IKUO NAKAMURA

世界中の水中写真家から、もっとも美しい海と評されているのが、エジプトの紅海である。荒涼とした砂漠が続く不毛の大地。その向こうに広がる透けるほどに美しい青い海。

道なき道が、まるで突然割れたかのように口を開いている。断崖絶壁のはるか下方に世界一の海が広がっている。

紅海という名は、夕日に染まった砂漠の大地が、紅く海にその影を落とすことからきている。実際私もこの目で見たが、自分の体も染まるほど陸地も海も紅く燃えているようだった。

草木も生えない陸の景観とは裏腹に、海中はとても色鮮やかな世界が広がっている。サンゴも豊富で、それらが青い海の中に彩りを添えている。

サンゴ礁の周りには、小鳥が飛び交うように、キンギョハナダイが乱舞している。ダイビングポイントの周辺は禁漁区なので、人が近づいても魚たちは逃げる気配がない。そればかりか、何者かと言わんばかりに、こちらをのぞきにくる。

魚もサンゴも極彩色に染められた海中は、紅海という名にふさわしい、世界一美しい海であると実感した。

Profile

中村征夫(なかむら・いくお)

1945年 秋田県生まれ。20歳のとき自己流で潜水を始め、撮影プロダクション水中造形センターを経て77年よりフリーの水中写真家に。著書・作品集は『全・東京湾』『海中顔面博覧会』『白保』(情報センター出版局)、『ガラパゴス』(集英社)、『カムイの海』(朝日新聞社)、『海のなかへ』『熱帯夜』(小学館)、『沖縄珊瑚海道』(アспект)など多数。第13回木村伊兵衛写真賞、第9回文化庁芸術作品賞、第12回東川写真特別賞、第28回講談社出版文化賞写真賞、ほか受賞多数。今夏は写真展のほかトークショーでも海の魅力を伝える。写真展:7/4~8/19新宿・エプソンイメージングギャラリー、7/6~12大阪富士フォトサロン、7/24~29熊本県立美術館分館。中村征夫&椎名誠スライドトークショー:8/5サンケイホール(サンケイ企画/06-6345-5062)



編集後記

今号では、フラッシュメモリのスタックMCP技術とその新製品を特集しています。これらのメモリの恩恵を最も身近に感じるのやはり携帯電話です。あまりに電話機が小さいため声が拾われるか不安で、聞くときは耳へ、話すときは口の側へ持つてくるという光景も、今は昔。小型の新機種がどんどん出てしまうので、買い換えのタイミングには本当に悩まされます。またTOPICSでもお伝えしましたが、当社「電子デバイス製品」ホームページをリニューアルしました。これからも皆様役に立つ情報をお届けしたいと思いますので、ぜひご覧ください!(H.K.)

FIND 2001年7月発行 Vol.19 No.4 通巻93号

発行 富士通株式会社 電子デバイス事業本部

企画編集 FIND編集委員会

お問い合わせ先 富士通株式会社 電子デバイス事業本部

FIND編集事務局

〒163-0721

東京都新宿区西新宿2-7-1 新宿第一生命ビル

TEL 03-5322-3351 FAX 03-5322-3395

株式会社シークコーポレーション

印刷